

# 大津企業景況調査報告書

(第95回)

令和3年10月～12月期 実績

令和4年 1月～3月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について  
(令和3年10月～12月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 100 社に F A X 方式による調査

2. 調査企業

産 業 別	調査対象企業数	有効回答企業数	回 収 率
製 造 業	1 2 社	8 社	6 6 . 7 %
卸 売 業	1 3 社	1 0 社	7 6 . 9 %
小 売 業	2 5 社	2 2 社	8 8 . 0 %
サービス業	3 1 社	2 3 社	7 4 . 2 %
建 設 業	1 9 社	1 5 社	7 8 . 9 %
合 計	1 0 0 社	7 8 社	7 8 . 0 %

3. 調査期間

調査対象期間は令和3年10月～12月とし、調査時点は令和3年12月1日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」の DI 指数は、3 ヶ月前との比較である。

「採算(経常利益)の水準」、「取引の問い合わせ」の DI 指数は、過去比較でなく、水準を聞いたものである。

## 景況感は足踏み状態で改善の勢い欠く

令和3年10月～12月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数としてDI指数（景気動向指数）を採用している。DI指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

### 全体

景況感は、今四半期の全体の業況判断DI（前年同期比）が前四半期の▲20 から今四半期は▲22 へと小幅悪化し、足踏み状態である。業種別では、前期に+9 へと一旦回復を見せた製造業が今期は▲38 へとマイナスに転じ、建設業も▲6 から▲27 へと、いずれも大幅悪化した。卸売業も▲46 から▲40 へ、サービス業も▲32 から▲30 へと足踏み状態となっている。一方で、前期▲20 へと悪化した小売業は今期+5 へと、一転して大幅改善となった。

先行きの業況判断DIは、全体では▲22 から▲12 へ改善するとみているが勢いを欠く。サービス業では▲30 から26ポイント改善し▲4 へ、卸売業も▲40 から20ポイント改善し▲20 へ、また建設業でも▲27 から7ポイント改善し▲20 へとマイナス幅が縮小し、小売業も+5を維持するとみている。一方、製造業では▲38 からさらにマイナス幅が12ポイント拡大し▲50 へとさらに悪化するとみており、業種により先の見通しは2極化している。

#### □ 業況判断DI（前年同期比）は、全体では小幅悪化が進むも、小売業では反転の兆しも

「前年同期比でみた業況判断DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲20 が今期は▲22 となり、製造業、建設業で特に悪化した。小売業は▲20 から+5 へ改善した。

#### □ 売上DI（前年同期比）は、全体では悪化するも、卸売業、小売業では改善の兆しあり

「前年同期比でみた売上DI(全体)」(「増加」－「減少」)は、前四半期の▲14 から▲22 へと悪化が進んだ。業種別では、建設業が+6 から▲20 へ、製造業も+9 から▲13 へといずれも20ポイント超の悪化でマイナスに転じ、サービス業も▲20 から▲39 へと悪化が進んだ。一方で、卸売業では▲46 が▲20 へ、小売業では▲20 が▲9 へとマイナス幅が縮小した。

#### □ 採算DI（前年同期比）は、全体で悪化し、特に製造業、建設業では顕著

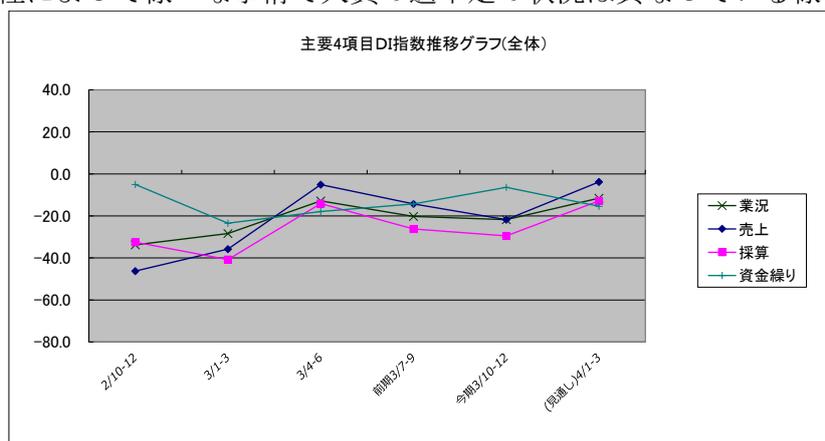
「前年同期比でみた採算(経常利益)DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲26 から今四半期は▲30 へとさらに悪化した。前期に改善が進んだ製造業では一転して▲9 から▲38 へ、また、建設業でも▲29 から▲40 へとマイナス幅が大幅に拡大した。一方、小売業では▲25 から▲18 へマイナス幅が縮小し、サービス業は▲28 から▲26 へと小幅改善した。

#### □ 資金繰りDI（3ヵ月前比）は、全体として改善も、建設業、卸売業、サービス業では悪化

「3ヵ月前比でみた資金繰りDI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲14 から▲6 へと改善した。特に小売業で▲30 から+9 へと大幅改善し、製造業や卸売業でもマイナス幅が縮小した。一方で、建設業では±0 から▲20 へ、サービス業でも▲4 から▲9 へと悪化した。売上の減少や採算の悪化が進む中、一時的にはコロナ融資で凌いできた状況から、据え置き期間が過ぎて返済の負担が加わり、手元資金が逼迫してきている状況がうかがえる。

#### □ 従業員DI（前年同期比）は、全体で人手不足は緩和し、特にサービス業、卸売業で顕著

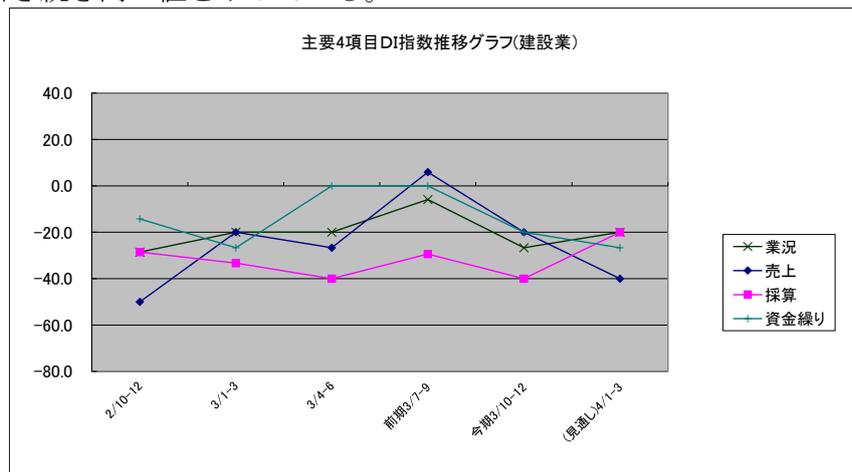
「前年同期比でみた従業員DI(全体)」(「不足」－「過剰」)は、前四半期の+21 から今期は+12 へと緩和した。特に売上が悪化し仕事量が減少した業種では、サービス業が+24 から±0 へ、卸売業でも+18 から±0 へ、建設業も+47 から+40 となり、人手不足は解消、あるいは緩和しているとみられる。一方で、製造業では±0 から+13 へと人手不足感が高まっており、業種によって様々な事情で人員の過不足の状況は異なっている様子がうかがえる。



## 建設業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲6 から今四半期は▲27 へと悪化している。個別指標をみると、「売上」は前四半期の+6 から今四半期は▲20 へと大幅に悪化し、再びマイナスに転じた。「採算」についても▲29 から▲40 へと悪化している。コロナ禍での業界全体の低迷による売上減少に加えて、材料価格の上昇や入手難、あるいは人の移動制限による手待ちの発生からの予期せぬ出費など、様々なコストアップを販売価格に十分転嫁できないことが業況悪化に影響している様子がうかがえる。「資金繰り」についても、前期の±0 から今期は▲20 へと悪化しており、コロナ融資による資金が次第に減少し、据え置き期間経過後の返済開始による負担増加などで困難な状況に陥っていることも想定される。

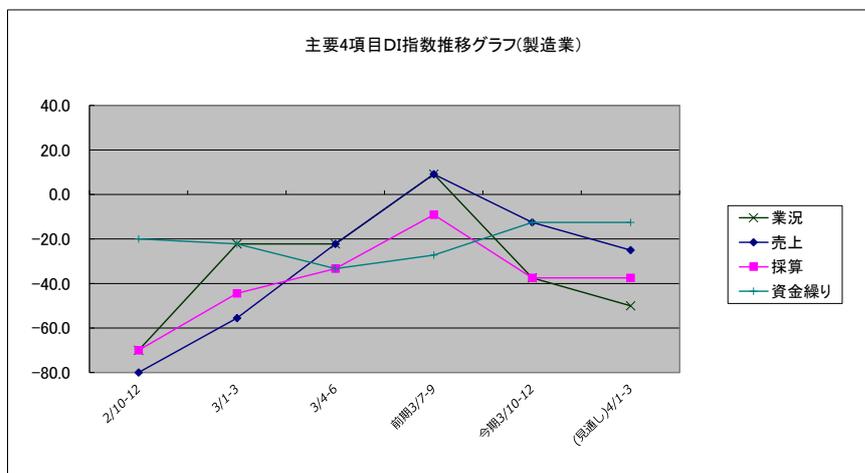
「従業員」は前四半期の+47 から今四半期は+40 となり、人手不足感は若干弱まっているものの、引き続き高い値を示している。



## 製造業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の+9 から今四半期は▲38 へと大幅悪化し、再びマイナスに転じた。個別指標をみると、「売上」は+9 から▲13 へと、一転してマイナス 22 ポイントの大幅悪化となった。「採算」についても▲9 から▲38 へ大幅悪化した。一時期は業況改善の動きがみられたが、原料の高騰を販売価格に転嫁できないことや原材料の入手難による部品調達の遅延などで再び景況が悪化してきている状況がうかがえる。「資金繰り」については▲27 から▲13 へと改善しているものの、プラスに転じるまでには至っていない。

「従業員」については、前四半期の±0 から今四半期は+13 となっており、業況悪化にもかかわらず、再び人手不足感が高まってきている。

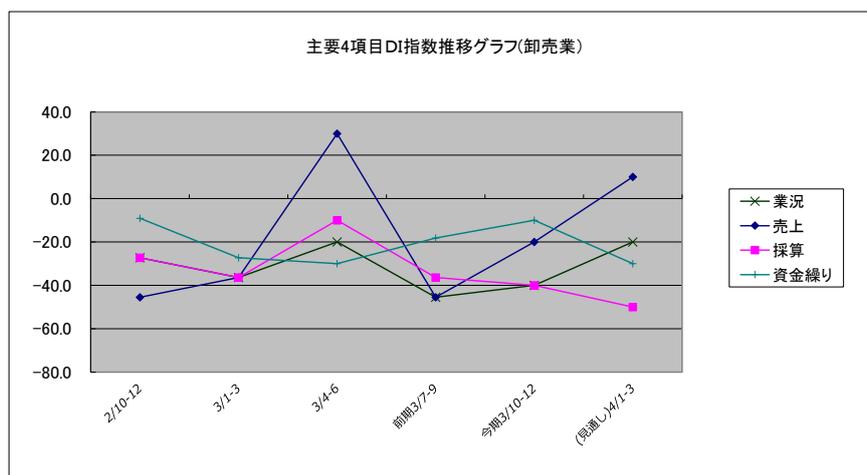


## 卸売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期▲46 から今四半期は▲40 へと小幅改善した。個別指標をみると、「売上」は前四半期の▲46 から今四半期は▲20 となり、26 ポイント改善した。一方で、「採算」については、前四半期の▲36 から▲40 へと悪化している。業況は改善しているものの、利益確保までには繋がっていない状況もうかがえる。

「資金繰り」については、▲18 から▲10 へと改善しており、商品の回転が早まってきたことにより、資金繰りに良い影響を与えている状況もうかがえる。

「従業員」は前四半期の+18 から今四半期は±0 となり、人手不足は解消している状況が見て取れる。



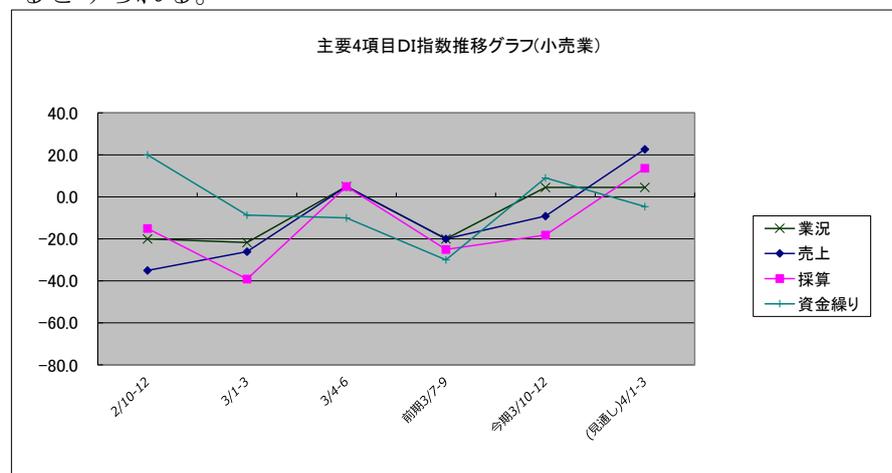
## 小売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲20 から今四半期は+5 へと大幅に改善し、再びプラスに転じた。個別指標をみると、「売上」は▲20 から▲9 となり、「採算」についても▲25 から▲18 へと改善した。

コロナ禍による消費者の行動の変化に戸惑いながらも、「ニーズを着実に捉えた商品の開発や販促活動の展開で、なんとか事業を継続する方法を見出してきた」という現場の声がある一方で、従来に存在していた需要の大幅な減少に有効な手立てが打てずに、困難な状況からなかなか抜け出せない状況を訴える声も聞こえてくる。

「資金繰り」は前四半期の▲30 から今四半期は+9 へと改善しており、売上や利益の改善が資金繰りに良い影響を与えている状況もうかがえる。

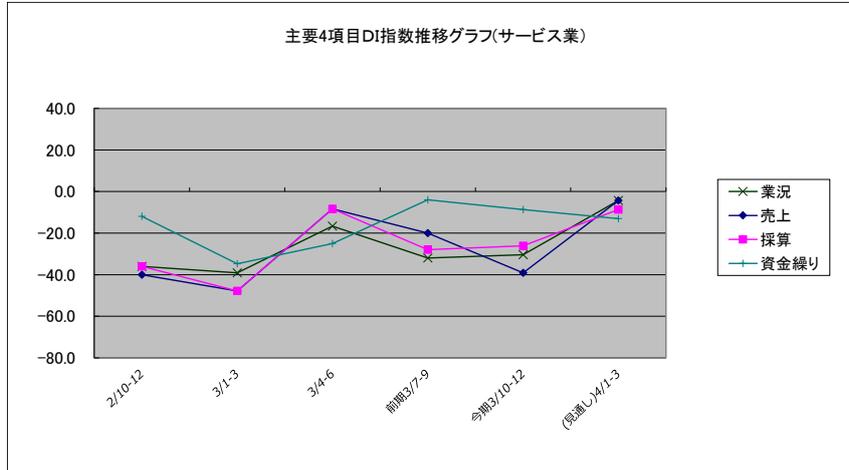
「従業員」は前四半期の+10 から今四半期は+9 と、ほぼ変わらず、一定程度の人手不足状態が続いているとみられる。



## サービス業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲32 から今四半期は▲30 へと足踏み状態が続いている。個別指標をみると、「売上」は▲20 から▲39 へと大幅悪化し、「採算」も▲28 から▲26 へと、依然、厳しい状況が続いており、エネルギー費など諸経費のコストアップ分がなかなか価格に転嫁できずに苦慮している現場からの声も聞こえてくる。

「従業員」は前四半期の+24 から今四半期は±0 となり、売上の減少に伴って、仕事量が減少し、人手不足状態は解消されているとみられる。



来四半期(3ヵ月後)の「業況」DIは、今四半期の▲22 から来四半期は▲12 へと改善するとみている。個別指標をみると、「売上」は▲22 から▲4 へ改善し、「採算」についても▲30 から▲13 へと改善するとみている。「従業員」については+15 から+17 へと人手不足感は足踏み状態となるとみている。滋賀県全体の有効求人倍率は一時期0.8程度まで低下した後、最近では1.0に近い値まで戻ってきているものの、引き続き動向に注意する必要がある。

業種別の「業況」DIでは、製造業は今四半期の▲38 から来四半期はさらに悪化して▲50 になり、また、「採算」の改善に伴って、業況が▲26 から▲20 へと改善する建設業も、「売上」については、▲20 から▲40 へと大幅悪化すると見ている。一方で、卸売業の「売上」は▲20 から+10 へ、小売業も▲9 から+23 へ、サービス業も▲39 から▲4 へと改善するとみている。

コロナワクチン接種が進み、ようやく第5波が収まってきて、イベントの再開や人流制限の緩和などによる経済の回復が期待される中、国内では業況改善の動きもうかがえるが、年末年始にかけて新たな変異株での第6波の拡大で再び行動制限が発出される懸念や、エネルギー費の上昇や円安による輸入原材料の価格高騰や、世界的な輸送体制の混乱による入手難による経済の停滞を懸念する予測もあり、現場からは今後の事業運営に不安の声も出ている。

3ヵ月後の設備投資については、「計画がある」と回答した割合は24%で、3ヵ月前の26%から2ポイント低下しており、設備投資に対する意欲は引き続き低い状態を維持している結果となった。業種別では、卸売業が50%、製造業が38%、小売業が27%、建設業が20%、サービス業が9%となっており、業況の改善が予測される卸売業では比較的高い割合を示しているものの、全体としては設備投資に対して、より慎重な姿勢を取る傾向がうかがえる。

投資内容の割合は、「設備更新」が42%で最も多く、コロナ禍による業況の先行きが不透明な中でも、老朽化設備の入れ替えは必要と判断されていると思われる。「合理化・省力化」については3ヵ月前の20%が今期は26%となり、これらの前向きな設備投資への意欲が若干持ち直してきている様子も見て取れる。「生産力増強」については、3ヵ月前の24%が今期は11%へと低下しており、当業界での全体的な需要低迷が設備投資に影響しているとみられる。

一方で、投資方針は、「計画通り」が3ヵ月前の55%から58%となり、「景気により見直す」が32%から21%へと、景気の先行きに期待する姿勢もうかがえる。

田中マネジメント事務所  
MBA・中小企業診断士 田中清行

**(今の経済情勢に対する意見)** 以下は、今の経済情勢に対する意見である。

- ・ 12月からは厳しい選択をしなければならないでしょう。仕入単価の上昇は全国的とはいえ、簡単に販売価を上げられない。生活においても、大きく変わりそうな年。色々と整理していきましょう。(製造業)
- ・ 一部持ち直しつつある得意先もありますが、依然として低調なところもある。年末以降景気回復を期待します。(製造業)
- ・ 早くイベント等を再開してほしい(東レの売出し、夜市、花フェスタ、盆踊り、花火大会)  
(小売業：榎田十郎)
- ・ におの浜地域全体が、西武が無くなりとても静かになり、活気が無くなってしまった。西武跡地に人が集まる商業施設がほしい(小売業)
- ・ 小売業の目線で、晩ごはんに出前料まで払って食べる消費者のニーズは、理解を超える。しかし、これも今も時代の消費者ニーズ。つまり、自分達がどういうお客様に来て頂きたいかが、ニーズの多様化の中で大事になってきていると感じます。(小売業)
- ・ 新たに取っかかったネット販売に微かながら売上を伸ばして来ていて、新しい商品構成でその分伸びれば、従来の顧客販売の減少を(顧客の老齢化で減退)こちらの販売能力も減退。新たな営業方向での伸びを考えなければ、売店芸の強化と改革です。(小売業)
- ・ 今こそ滋賀(県民割)12月以降適応地域の拡大と、来年2月以降のGOTOトラベルの再開に期待しています。来年は観光飲食業にとって良い1年になることを願っています。  
(サービス業)
- ・ ①コロナの影響を受けたアジアからの部品調達の遅延等による国内自動車生産の減少。②半導体不足による自動車の減産。①②による自動車販売の低下(サービス業)
- ・ 規模ありきのバラマキ政策ではなく、ピンポイントの財政支出とウィズコロナ時代の経済政策を試行錯誤しながらでよいから、打ち出し、民間の活力を引き出してほしい。  
(サービス業)
- ・ 原油の騰、諸物価の上昇になるが報酬の値上げはできないことから来年も明るい期待がもてない。(サービス業)
- ・ 資材価格の上昇が大きい(例、シリコンボンドの50%上昇など)。釘、鋼板等が価格上昇しており、利益の減少につながっている。(建設業)
- ・ コロナウイルス感染が終息しない限り不安が常にあります。実際、工事に多少の待ちがあります。工事がスムーズに進むことだけ願っています。(建設業)

以上

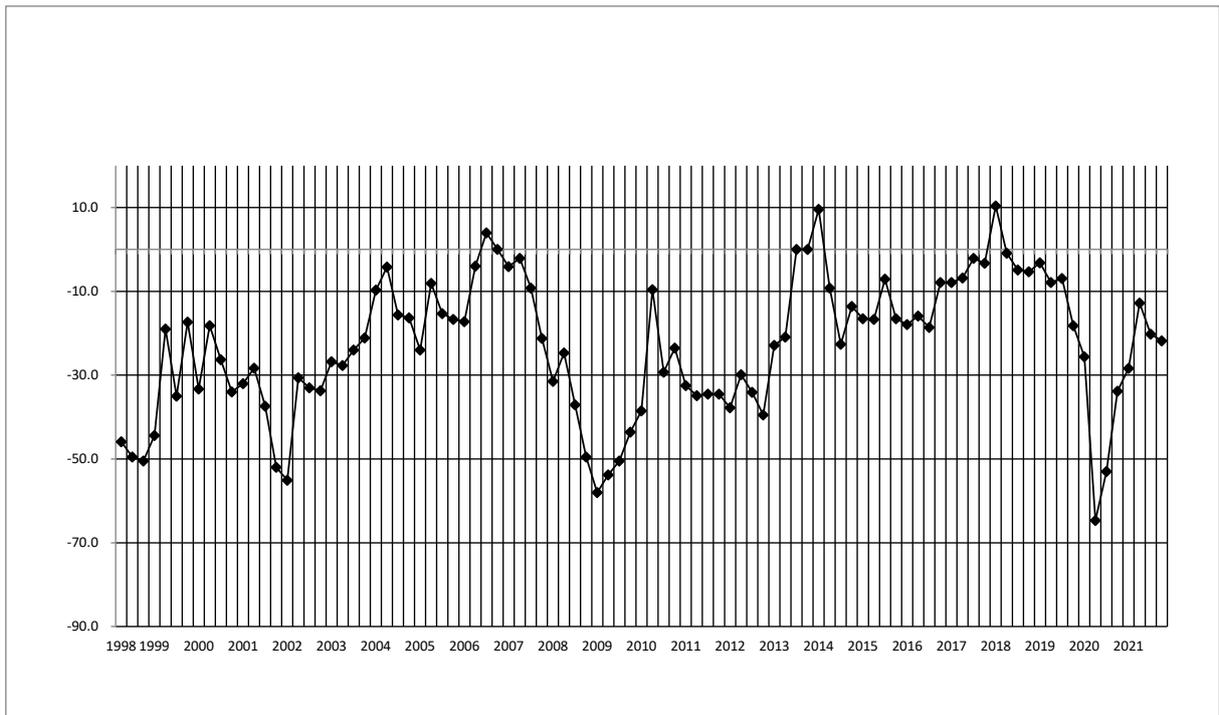
## DI 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し
全 体	▲21.8	▲11.5	▲21.8	▲3.8	▲29.5	▲12.8
建 設 業	▲26.7	▲20.0	▲20.0	▲40.0	▲40.0	▲20.0
製 造 業	▲37.5	▲50.0	▲12.5	▲25.0	▲37.5	▲37.5
卸 売 業	▲40.0	▲20.0	▲20.0	10.0	▲40.0	▲50.0
小 売 業	4.5	4.5	▲9.1	22.7	▲18.2	13.6
サービス業	▲30.4	▲4.3	▲39.1	▲4.3	▲26.1	▲8.7
	前年同期との比較		前年同期との比較		前年同期との比較	

	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し
全 体	2.6	9.0	▲17.9	▲21.8	11.5	16.7
建 設 業	▲6.7	20.0	0.0	▲20.0	40.0	40.0
製 造 業	25.0	25.0	▲12.5	▲12.5	12.5	12.5
卸 売 業	20.0	20.0	▲20.0	▲30.0	0.0	0.0
小 売 業	4.5	9.1	▲13.6	0.0	9.1	9.1
サービス業	▲8.7	▲8.7	▲34.8	▲43.5	0.0	17.4
	今期水準と来期見通し		今期水準と来期見通し		前年同期との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	10-12月期 動向	1-3月期 見通し	10-12月期 動向	1-3月期 見通し	10-12月期 動向	1-3月期 見通し
全体	▲6.4	▲15.4	▲2.6	▲1.3	▲2.6	▲1.3
建設業	▲20.0	▲26.7	6.7	6.7	13.3	13.3
製造業	▲12.5	▲12.5	▲12.5	0.0	▲12.5	0.0
卸売業	▲10.0	▲30.0	0.0	0.0	▲10.0	▲10.0
小売業	9.1	▲4.5	▲13.6	▲13.6	▲9.1	▲9.1
サービス業	▲8.7	▲13.0	4.3	4.3	0.0	0.0
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

本調査開始（1998年 第二四半期）以降 業況DI指数推移グラフ（全体）



※縦目盛り軸は、全業種の業況DI指数を表しています。横目盛り軸は、調査年を西暦で表しています。

## 大津商工会議所

〒520-0806

滋賀県大津市打出浜 2 番 1 号

コラボしが 21 9 階

TEL : 0 7 7 - 5 1 1 - 1 5 0 0

FAX : 0 7 7 - 5 2 6 - 0 7 9 5

URL <http://www.otsucci.or.jp/>